

# 東アフリカ・タンザニア漫遊紀 ツアーがなきゃ自分で作ろう!

私の知る限り、日本のバイクツアーで東アフリカはない。でもどうしても走りたかったので自分で道地会社と連絡を取り、2000年末〜2001年初にかけてケニアツーリングを実現させた。スタッフと別れる時にまた来ようと思った。しかしこんなに早くまた来てしまうとは……

写真・文 小川 真



## 2001年1月15日 午後

タンザニア、キリマンジャロ国境空港へ降り立った。ツアーの手配をおこなった「フレッドリンク社」はケニアのバイクツアー会社で、社長のフレッドとは丁度月ぶりの再会。懐かしいような、ついこの前会ったような、バイクはRR350。医療車ではドクターの同行以外に投資飛行機を飛ばせる保険にも加入している。フレッドはチェニジャラーイなどにも参戦したことがあり安心して任せられる。また、コースの設定には特別感でさせられる。

## 16日

マニヤ半島でフラミンゴの群れを見つけた。道で昼食。昼食後にスタッフが夕食の買い物に行った。予感としてはいたのだが、今回も新鮮すぎる。

※日曜日の先、キリマンジャロ山に登った。M・キリマンジャロの山頂へ。



東アフリカの魅力のひとつは、国立公園や保護区以外でも、野生動物と出会える確率が高いことだ。今日も道端でキリンやシマウマを見かけた。バイクでのサファリとは違って質次なのだろうか。

## 17日

午前中はンゴロンゴ国立保護区を車でサファリ。今は大乾期で動物が少ない時期だが、それでもガゼル、カバ、象、ライオン、チーター、シマウマ、カバ、サイなどを会えた。

## 18日

午前中はンゴロンゴ国立保護区を車でサファリ。今は大乾期で動物が少ない時期だが、それでもガゼル、カバ、象、ライオン、チーター、シマウマ、カバ、サイなどを会えた。



ンゴロンゴ国立保護区をサポーター車でサファリ。ハイマツから南に保護区は広がっている。



マサイの戦士予備軍の人たちと。戦士になるにはまだまだ修行が必要なのだろうか？(写真の人たちはまだ戦士ではないそうです)



マサイの赤ちゃんを抱く人。それにしても、赤ちゃんは可愛いです。

## 19日

マサイ族の集落近くで草原キャンプ。夜間の整備をしようとした。マサイさんを数人は雇ったはずだが、40名以上の人が手伝わってくれたり、ただ見物していたり、チントの投資も一段落したところ、山平の牧場が聞こえてきた。今夜も新鮮すぎる肉を食べることに決めた。料理を待つ間に、マサイさんの歌とダンスを見学する。楽器は一切使わずに歌と呼吸だけで繰り返す。とても神秘的な感じがした。



